

# 第61回定期総会議事録 2023年3月5日10時～16時大阪国労会館

(氏名：敬称略)

園会長から開会宣言と会長あいさつ。松本副理事長から議長書記の任命提案

総会役員 議長(テルル：戸田、泉州；河本) 書記(常任・大見)

資格審査委員(西淀：大西) (白峰：近藤) 常任(大西)

選挙管理委員(志峰：中尾) (ぼっぼ：木村) 常任(松本)

議事運営委員(こもれび：佐々木) (KLCC：大山) 常任(澤村)

## ■議事録詳細

### (1)会長及び来賓挨拶

#### ・園会長あいさつ

今年度は行事を再起動した1年。特筆すべきは連盟主催の学校の再開。女性のための登山教室、セミナー、初級・中級登山学校、岩登り体験教室などスタッフに感謝。要望のあった初級登山学校は年齢制限を無くし再開、各会の活性化に貢献していきたい。

大阪労山の会員数は1000人を下回った。是非とも仲間を増やすようお願いしたい。

#### ・大見事務局長から議長と書記の提案と承認

・議長あいさつ 円滑な運営をしたいと思います。

・総会役員選出 議長から提案

#### ・来賓あいさつ(全国 川嶋理事長)

労山高齢化、先進国同士が戦争でいがみ合っている、給料も上がらず山に行きにくい。

そして温暖化に逆らう武器使用。大規模のソーラパネル開発。

登山者は自然破壊を目で見て感じている。いま求められているのは、戦争や自然破壊ではない。山に行こう。会員を増やそう。北海道や岡山は会員を増やしている。

安全登山については、ネットで簡単に情報が得られる一方、対面で話をしなくなり、安全の考えずに山に行き事故に遭う事例も増えているのは問題である。

大阪の反転攻勢につなげていきましょう。

・資格審査委員等は集合して打合せ。

・資格審査委員会 代議員59名中 21委任状 33名出席 54名の出席となり、本総会は成立していることを説明

・選挙管理委員会 松本副理事長から 新年度役員の立候補受付(13時まで)を説明。

・議事運営委員会 委員長；澤村常任から 活発な議論を促す

### (3)議案説明

1号議案(状況・活動方針)高橋理事長：労山ニュースに載った理事会でのご発言を読み直してみた。コロナにめげず活動していく、機関誌の紙媒体を継続して欲しい、

冒険学校 登山学校復活、残念なことは3つの会(カラクルン、安治川、中郵)が脱

退した。これらの会は1人が仕切っている会で、みんなで会作りを怠っていたのでは？  
生きがいがある会作りをしている会は継続できるのではと考える。

防衛増税、原発60年、大阪カジノなど問題が山積みしている。カジノ申請が通れば35年契約となってしまう元には戻れない。コロナ死者も大阪は多いが、保健所の削減も一員では無いか？

5月以降の労山事務所の人数制限については、人数制限の規定は無くし、会議を主催する方が責任をもって対策などをお願いしたい。皆様のご意見を伺いたい。

- ・組織部（濱田常任）

会活動が低下し、86人の減少となった。会員数は1000人を切り、973人となった。  
増の会はHPやブログの継続、公開山行、体験山行も入会につながる。HPに加え口コミも会員増になっている。

減の会は、コロナで活動が出来ない、会社に迷惑を掛ける、会員の高齢化などで減らしている。

3つの会が脱会している。労山加入のメリットがない、後継者が育っていないなどの問題があった。

組織部は、事務所、リモートで実施。いつも会議は3,4人。

組織担当者会議はZoom併用で26人の参加。活発なとりくみをしている2つの会、兵庫労山からの報告を参考にしていきたい。

交流キャンプは会場の問題で中止した。

全国ハイキング交流集会に参加したが、大阪の加入山岳会からの参加が少なく寂しく感じた。

今年度の活動

山筋GoGoなどの体力作り、各会と連盟各専門部とのつながりを強め会員拡大につなげていきたい。

セミナーなど未組織登山者の取り込みも進めたい。

各会の組織部員との話し合いの機会を作り、世代交代も進めていきたい。

各会には、一般登山者の取り込み活動を。

- ・ハイキングセミナー（中尾校長）

感染で実施できていなかったが、3年ぶりに再開できた。

夏は8人。うち7人が労山内部。冬は3人。

来年度も実施を目指していく。

- ・こどもの冒険学校（大見常任）

クライミング体験会を復活したい。またスタッフ講習会を充実したい。

- ・女性委員会（笠井さん）  
 女性のための登山学校実施。新年度も4人の応募有り。  
 長距離縦走 冒険学校の支援なども継続する。
- ・機関誌部（大西常任）  
 紙とHPで広報している。4-5月号は合併号となったが、来年度も発行できるよう進める。
- ・自然保護委員会（澤村常任）  
 クリーンハイクは久しぶりに実施できた。  
 環境省の生き物ログに 雷鳥目撃情報を載せている。目撃件数130件の内40件が大阪労山自然保護委員会の投稿。他の山岳会の活動アップの刺激になりたい。  
 登山をしなければ、自然保護憲章の実践は出来ない。今年度も、雷鳥保護の目撃情報に取り組みたい。日本山岳会も取り組みを開始した。  
 クリーンハイクは4年前の706人を上回る参加を目指す
- ・障がい者登山（澤村常任）  
 実施の情報を早くつかみ、労山内の参加を呼びかけます。
- ・障登PT（山下常任）  
 障がい者の事故を防ぐ意味で、2018年から活動を開始。  
 Zoomから対面に変えて実施している。参加者は54名。その中からたつこの労山に2名加入してくれた。延期されていた聴覚障がい者向けの事故事例集勉強会を実施。  
 1月には雪山登山技術の実技研修を行った。  
 これまでに253名の参加。事故発生は0件で有り、成果が出ていると考える。  
 新年度、4つの取り組みを行う。クライミング講習会を復活させたい。
- ・長距離縦走委員会（木村さん）  
 3年ぶりに実施。例年400人の所、201人の参加者。参加者からは開催に対する感謝の言葉が有り、スタッフはうれしく思いました。今年も10月第3週に開催予定。  
 参加費については、当日参加の方は値上げを考えている。事前申込者の値上げはしない。  
 引き続き各会の協力をお願いします。
- ・平和と登山（大西常任）  
 平和行進は例年90名程度の参加者でしたが、コロナ禍で64人の参加者だった。  
 4月に平和登山学習会を実施。ウクライナ侵攻は許されない、福島原発関西訴訟団報告、座談会を開催した。労山ニュース2022年5月号に報告を掲載している。

・第2号議案 決算報告（高橋理事長）

議案に基づき報告がなされた。

事務所家賃の値下げ、機関誌の紙媒体発行再開の予算を計上したが少なかったなど、決算報告があった。

・監査報告（横田監査役）

第2号議案は適正に処理がされていることを報告いただいた

・第3号議案 予算案提案（高橋理事長）

議案に基づき提案がなされた。

遭難対策資金は、徴収しない。

リース代は再リースで値下げ。例年通りの専門部予算となった。

・教育遭難対策部（大見常任）

出来たこと出来なかったことを○×つけて表にしています。教育システム見直しは、初級冬山登山再開出来たので○。事故防止などは出来ていないところが多い。

兵庫労山の「登山のための筋力アップ講習会」では筋力の効果が得られたが、その分シニアは体力低下した状態で山に登っていると言うことになる。事故防止の観点からも来年度は大阪も共催していきたい。

事故届が大阪労山に届けられていない事例が多く見られた。確実に提出して貰えるよう方法を見直した。

・中級登山学校（朝日校長）

昨年は中止したが、今年は コロナ禍に対応した形（バス利用、テント共用など不可、本ちゃん山行もできない、7月末までの短縮）で開催できた。

修了生からあるレベルに達した人をコーチにしているが、一方ベテランコーチが抜けていつている。学校の運営も コーチにある一日を運営してもらうことで運営スタッフとして成長を期待している。

・岩登り体験教室（西村隊長）

申込み開始と同時に応募が殺到するほど人気でした。若い人は SNS で活発に活動しているが安全に問題もある傾向。修了生には労山に入った方も有り、横のつながりを強めていきたい。楽しむためには安全意識が不可欠ということで進めていきたい。

また この教室を引き継いでくれる方を探している。

12:00 午前報告終了

12:45 報告再開

・山の教室（木村さん）

コロナで人数も減ったが、逆にリモートの方が参加しやすいという意見もあった。  
前半は利用者減だったが、後半は登山学校やセミナーでも活用して利用数が増えた。  
各会で活用をお願いしたい

・技術委員会（大見常任）

ヤグラの活用が少なくなっている。雪の斜面での確保技術訓練も出来るようにしていきたい。新年度はヤグラの整備（緩衝材、ウインチ）を進める

・救助隊（西村隊長）

例年 雪不足で訓練できなかったが、今年は雪が多くて中止した。  
新年度は、4つの訓練を継続すると共に、技術的な検証、実践的な（現場での）訓練などを進めていきたい。

・資格審査委員（大西常任）から 54人の出席で総会成立していることを報告

・選挙管理委員（松本副理事長）から 立候補はいなかった旨 報告

(4)討論（質疑および提案）

Q ひまやま（奥田氏）：決算をみて、専従はいないのでですね。

人を増やすのが難しいが、結局 人のつながりですね。HP も作っているのでリンクをお願いします。山を登っていてマスクが良く落ちている。普段は拾わないが、拾っていくようにしたい。

ダイトレ、20km のリミットを 2 時では無く 3 時にして欲しい。ずらせば参加者も増えるのでは？

A ALBA(木村氏)：20km コースについては検討していきたい。

Q きたろう（高桑さん）：事務所の人数規制について。15名という制限の中で交流は限られている。対面による活動が重要だと思う。撤廃、緩和を考えて欲しい。他の会はどう考えているか？

A 高橋理事長：もう少し緩和したい。飲食はきびしい。いろんな方のご意見を聞きたい。

Q ハイジ（川上さん）：以前吹田の方が新人や退職したシニアの教育が出来ないという話を

お聞きした。その当時は年齢制限があり、セミナーにも参加出来ないということもあった。ことしは初級登山学校に 2 名お世話になっている。シニアも受け入れてくれた連盟やスタッフ（過去のセミナーの卒業生）、学んで残ってクラブやセミナーをサポートするというセミナーの考えが良いと思う。

女性委員会には 20 名程度の山筋 GoGo サポーターがいる。シニアの筋トレの大切さを提案したい。

A 吹田（蘆田さん）：初級登山学校は年齢制限を撤廃してくれたが、50 代の方が吹田から参加した。退職直後の方はどの方のことか認識していない。

Q こもれば（佐々木さん）：総会の花がない。例えば仲間で共有できる「今年は\*\*で行こう」というテーマが欲しい。こういうモノが無いと他の会も振り向かない。

原発訴訟について、最高裁まで行きそうで、まだまだ長引きそう。応援していきたい。

機関誌活動で、各会との交流が活発になることを期待する。

上村さんをしのぶ会を開催して欲しい。

A 高橋理事長：花も実もある活動をしていますので、各専門部会の活動に参加して下さい。感動することが多いです。しのぶ会は自発的に開催してはいかがでしょうか？

Q ALBA（木村さん）：ココヘリが JRO とくつついたので、事故が起きた場合はどちらを使ったら良いのかお聞きしたい。

A 全国（川嶋理事長）：基金の交付のほとんどは死亡と入通院。救助捜索に支払われているのは非常に少ない。公的なヘリの普及で救助捜索費はほとんど掛からないようになっている。かかった費用は JRO と基金両方で折半するという形になるのではと思う。

JRO とくらべ、基金は入通院、海外登山や死亡給付でメリットある事を会の仲間に伝えて欲しい。

C ALBA（木村さん）：入通院のメリットをもっともっと訴えて、加入数を増やして欲しい。

Q 泉州（河本さん）：連盟費は 11 月末の人数で計算されているが、その後、会費は払われず、移った先で会費徴収されているはず。2 重取りを改善して欲しい。

A 濱田常任：11 月末以降に人数減った場合は減額をという提案が過去もありましたが、出来ないことを説明している。会によっては 4 月以降も継続するかを調査して 11 月末の人数を調整して報告している会もある。

A 全国（川嶋理事長）：全国は 11 月末の人数での請求をしている。その後新しい会が増えなくても、減っても 11 月末の人数での請求金額は変わらない。

A 高橋理事長：11 月以降の人数変更を認めると、会計が成り立たない。

Q 西村隊長：予算が 1 / 3 の 10 万になっている。減額理由を知りたい。救助隊は古い装備を使って節約している。

A 高橋理事長：残高があるので減額したが、活動費が足りなくなったら増額したい。

Q 西村隊長：文章で頂きたい

A 高橋理事長：文章にもできるし、救助隊の会議で説明も出来る。

Q きたろう（高桑さん）：コロナで山行中止をした時に辞めていく人も多かった。対面での活動が重要。府連でも規制緩和をして欲しいという話をした。各部会での余剰金は連盟に返納されるのが筋では？

A 高橋理事長：救助隊や各種学校は独立採算でやっている。きっちり管理しているのなら各種学校にまかしている。連盟予算をもらっている部局は、剰余金は返してもらっている。

A 濱田常任：対面して活動を活発にすることは常任理事会で話し合っています。

A 西村隊長：活動費と装備費の 2 つの予算をもらっている。装備も高い。買い代える時には何十万もかかるので、プールさせていただいている。

Q きたろう（高桑さん）：それではプールがあるから減額するという話はおかしいのでは。

A 高橋理事長：説明したとおりです。

Q ひまやま：HP 行事が古い。古い情報を整理して欲しい。HP も各会のボランティア募集をしては

A 大見常任：大阪労山 HP は山岳会の中で一番古い。古いところは残っているのでご指摘いただきたい。改善していきます。

Q 戸田議長：会員を増やした会の活動を知りたい。

A たつのこ（山下常任）：手話で学ぶ登山教室の活動から入ってもらっている。今後も活動を通じて増やしていきたい。

A 西淀（大西さん）：会員の横のつながりで加入してもらった。最近高い山に行く人が少なくなってきたので、ハイキング部と登山部を作った。結果として増えたのであって、参考になる話ではない

A フレンズ：沢登り教室を登山店にチラシを入れており、ハイキング程度の方を沢登りに連れて行くなどして増やした。

A OAR（大見常任）：他の会からの移籍者で増加。今後さらに伸ばしていきたい。

A ハイジ（川上さん）：年齢制限もなく初級登山学校に参加いただいた。

A くまごろう（水口さん）：ハイジからシニアの方の入校を聞いて、ダイトレをサポートした。

A 白峰（近藤さん）：コロナも年齢制限もなくなり 体力、レベルの違いもあるが 自分が何をしたいのかをコミュニケーションをして、みんなで協力しながらフォローしています。

Q ハイジ（川上さん）：新人シニアをどのように教育していくかという課題があったが、解決に向かっている。

Q 志峰会（中尾さん）：高齢化して新人の面倒を見るのも出来なくなっている。会で増やすよりもセミナーで増やすのも手なのかなと考えている。セミナーは 27 年続いている。70 歳で若い人について行けるか心配だったので、トレーニングするようになった。

経験よりも今できる事をやっていかなければならないと思っている。セミナーへのご支援をお願いします。

Q ピトン（菅野さん）：原発訴訟 10 年掛かっている。サポートいただき、ありがたく思っている。被害者がどんなに困っているのかを裁判で訴えているので関心を持っていただきたい。

#### 資格審査委員から報告

代議員 59 名中 21 委任状 33 名出席（午後 1 名退席） 54 名の出席となり、本総会は成立していることを報告

#### 議決

1 号議案	全会一致
2 号議案（決算）	全会一致
3 号議案（予算）	全会一致
役員信任投票	全会一致

#### 議長団解任（濱田常任）

来年議長推薦（濱田常任） 大阪志峰会 大阪ぼっぽ会  
閉会あいさつ 園会長  
以上